

日本社会福祉学会第 69 回秋季大会 特定課題セッション II 個人発表

妊娠葛藤を抱える少女との対話

—メール相談におけるコンテキスト解析を援用した支援技術の可視化—

○ 国立大学法人群馬大学 ダイバーシティ推進センター 長安 めぐみ (会員番号 008872)
〔デートDV 防止全国ネットワーク〕

キーワード：親密なパートナーにおける暴力 (IPV)・デートDV・妊娠葛藤・ナラティブ

1. 研究目的

本研究は「妊娠葛藤を抱える少女と相談員との対話」に着目し、民間団体とのステークホルダーでエビデンスを検証していく試みである。誰にも相談できないまま「孤立」する少女たちを再び社会に合流させる貴重な役割を果たしている相談員が、メール相談をとおして、経験的に会得された支援技術や専門性による正確な「見立て(瞬時の対応)」をどのように行っているのかについて、コンテキスト解析を援用し、定量的な分析を行う。

本研究は、超長期的には恋愛関係と暴力の問題に着目した多職種・複数団体に支えるネット上の相談窓口の構築を目指している。現在、若者の恋愛関係における暴力は「10代から20代の若者の約半数が経験している」とされ、親密なパートナー間における暴力 IPV(Intimate Partner Violence)は、男性も被害を受ける身近な人権侵害である。被害女性の4人に1人が命の危険を感じている重篤な状況であり、そのような関係に陥っても半数がだれにも相談できず、被害を受けた半数が葛藤を抱えたまま、暴力関係の加害者の元に留まっている現状がある。「被害者はなぜ危機的な状況に陥るのか」「危機的な状況から早期に脱するためにどのような支援が必要なのか」、この核心的な問いの答えを求める。

2. 研究の視点および方法

当該団体 NPO 法人「ピッコラーレ」は、「にんしん SOS 東京」の支援活動をつうじて「妊娠にまつわるすべての困ったどうしよう」に丁寧寄り添い、「妊娠したかもしれない」という「危機的な状況下の妊娠葛藤」に対して早期発見・早期介入の実績を持つ。ウェブ相談サイトが果たす社会支援に関して、統計的優位な手法であるコンテキスト解析を援用する。方法としては、①メール相談の支援技術や専門性の可視化、②「にんしん SOS 東京」のスタッフとのヒアリング解析、③エビデンスの統合と事例からのさらなる振返りを行い、相談員が瞬時に的確に行っている「メール相談における専門性の知見」を深めていく。

3. 倫理的配慮

本研究で分析を行った「にんしん SOS 東京」のメール相談を取り扱うにあたり、群馬大学医学系倫理審査委員会の許可を得ている。また、それに加えて、個人情報の保護の重要性を認識し、当該団体とデータの受け渡しと管理に関して、秘密保持契約書を取り交わしている。データについては、当該団体のシステムエンジニアがすべての相談について、匿名化の作業をしたのち、団体代表とデータを確認の上、暗号化した電子媒体で受け取った。

4. 研究結果

今回は、「にんしんSOS東京」の全てのメール相談 1,862 件(2015.12~2018.9 現在)のうち、高校生(15歳から17歳と回答した者と定義)の女性からの「妊娠したかもしれない相談(妊娠葛藤相談)」117件と相談員がその中から抽出した暴力が疑われる事例 37件を対比する形で、「妊娠葛藤を抱える少女と相談員との対話」に着目し検証していった。

結果 ① メール相談の支援技術や専門性の可視化

研究では、リテラシーに基づく自然言語処理の手法を援用し、相談メールや個人カルテの解析を行った。相談メールや個人カルテの検証：Inter Systems IRIS システムを用いて、「にんしんSOS東京」の多職種で構成される相談員チームが展開する迅速かつ的確な「見立て」について、メールや相談個人カルテの計量的な検証を試みた。結果「ありがとう」と尊重し傾聴する文脈や「○○さんも」「○○さんと」という同伴する呼びかけが高いエンティティとして挙げられ、若年の相談者自身が尊重され、独立した個人として扱われることによって、距離感を縮める効果が確認された。また、次の段階へと誘いかける「電話」や「よろしければお返事」の近接性の文脈が抽出された。

結果 ② 「にんしんSOS東京」のスタッフとのヒアリング解析

本研究に携わる研究者と「にんしんSOS東京」のスタッフとの意見交換の機会を数回持ち、その逐語録の解析を行い、少女たちの妊娠葛藤相談に潜在する課題を抽出した。結果、相談員が経験的に会得された支援技術や専門性による正確な「見立て(瞬時の対応)」をどのように行っているのかを可視化したカルテ分析の解説に対して、合致していると納得する様子が多々見られ、相談員の相談が問題解決の核心を得ていることに驚きと喜びをもって結果が受け入れられ、モチベーションアップに繋がった。

結果 ③ エビデンスの統合と事例からのさらなる振り返り

方法①②の結果を基に、妊娠葛藤相談における人間関係やその背景に潜むことが予想されるジェンダー構造、虐待及び暴力の影響についても明らかにした。結果、妊娠葛藤の中には、多くの暴力が潜んでいる。特に、知識も経済力も持たない高校生の少女たちにとって「妊娠したかもしれない」という危機的な状況下での葛藤状況は厳しい。メールから、ライン、電話、面談・同行支援へと段階を追って、支援の枠組みへと促していくためには、複数人の多職種の相談員の存在が大きい。短いメールには短く、長いメールには丁寧に「みんなでもんで」返信文を作成する「にんしんSOS東京」相談モデルは、今後の多職種によるデートDVのメール相談窓口の開設の道しるべとなる。

5. 考察

妊娠葛藤は、時間的な猶予がなく、問題がはっきりとしているため、メール相談に適している。匿名であってもあえて「ニックネーム」を自身でつけて相談につながる。性交から21日の間に、妊娠か否かの結果が出る。だからこそその間の相談員との対話が重要になってくる。当事者の少女を交えた多職種の相談員たちの対話は、あたかもオープンダイアログ(開かれた対話)の手法と類似している。その安心につながる「見守られ感」が重要であり、顔見えぬ他者を思いやる温かさが信頼関係の構築に繋がる。